

「応援します!! あなたの農業」



# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 49号 平成28年3月

発行元 福島市中町8番2号  
公益財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## あいづ農業青年クラブの貝沼隆一さん、県知事賞を受賞！

～平成27年度『福島県農村青年会議』～

福島県農業青年クラブ連絡協議会と当公社の主催による福島県農村青年会議が、平成28年2月5日(金)に、郡山市労働福祉会館においてクラブ員など80名が出席して開催されました。

会議は、クラブ員が設定した課題に取り組んだ成果等を発表する「プロジェクト発表」と農業に

対する考えを発表する「意見発表」及び「講演」の内容で実施されました。



た。(貝沼隆一さんのプロジェクト発表)

「プロジェクト発表」では、あいづ農業青年クラブの貝沼隆一さんが「シクラメンのケイ酸カリの使用法の違いによる品質の改善について」と題して発表し、自らのシクラメン経営の実践を通し、常に消費者ニーズを捉え、これに対する課題解決のため、適格な技術対策によりすばやく対応したことが高く評価され、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。また、「意見発表」では、東白川4Hクラブの沼野将美さんが「ねぎとアスパラと私」と題して、就農のきっかけやクラブ員同士の

つながり、地域との関わりを分かりやすく発表されました。特に、歌を交えたプレゼンテーションは、インパクトのある情報発信力で聞き手を魅了し、発表手法に工夫を凝らした分かりやすい発表で優秀賞(公社理事長賞)を受賞しました。

両名は、今年の11月に本県で開催される第47回東北農村青年会議福島大会に本県代表として出場することになりました。なお、その他の受賞者は次のとおりです。

「プロジェクト発表」

優秀賞(公社理事長賞)

あいづ農業青年クラブ: 成田健太郎

優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)

D"ATCH: 加藤将平

「意見発表」

優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)

あいづ農業青年クラブ: 佐藤 栄祐

また、プロジェクト・意見発表に引き続き行われた『講演会』では、福島大学経済経営学類の小山良太教授が「福島県の農業・農村の復興と若手農業者に期待すること」と題して講演をいただきました。福島県の農畜産物の風評払拭のためには適確な情報の発信(発信から伝えるへ)がポイントとなることを説明しながら、それを担っているクラブ員に熱いエールを送りました。

## 集積推進課

第1回～平成27年度第6回)の概要(市町村別面積)は以下のとおりです。

農地中間管理事業において、県知事より認可公告がありました農用地利用配分計画(平成26年度

### 農地中間管理事業の実施状況(機構からの転貸状況)

(単位:面積 ha)

No	市町村名	平成26年度 (第1回～4回) 合計	平成27年4 月 (第1回)	平成27年5 月 (第2回)	平成27年6 月 (第3回)	平成27年10 月 (第4回)	平成27年12 月 (第5回)	平成28年2 月 (第6回)	平成27年度 (第1回～6回) 合計	これまでの 累積合計
1	福島市	70.6		16.6	6.1			27.5	50.1	120.7
2	川俣町									
3	伊達市									
4	桑折町	0.1								0.1
5	国見町							36.8	36.8	36.8
6	二本松市							30.0	30.0	30.0
7	本宮市									
8	大玉村							33.9	33.9	33.9
9	郡山市	7.1		51.5	10.4		31.8		93.7	100.8
10	田村市				70.9			32.8	103.7	103.7
11	三春町									
12	小野町									
13	須賀川市			7.0	10.2		123.7		140.8	140.8
14	鏡石町				1.1				1.1	1.1
15	天栄村				4.7				4.7	4.7
16	石川町	2.5			1.3				1.3	3.8
17	平田村							28.2	28.2	28.2
18	浅川町						14.8		14.8	14.8
19	玉川村									
20	古殿町									
21	白河市		1.6	2.8	4.6			58.8	67.8	67.8
22	西郷村			7.9					7.9	7.9
23	泉崎村									
24	中島村			0.2					0.2	0.2
25	矢吹町	17.3			6.4			14.0	20.4	37.8
26	棚倉町									
27	矢祭町									
28	塙町							3.3	3.3	3.3
29	鮫川村							7.1	7.1	7.1
30	会津若松市	234.0		194.9	20.2			277.9	493.0	726.9
31	磐梯町							10.1	10.1	10.1
32	猪苗代町	91.1	47.4	38.1	67.4			91.8	244.7	335.8
33	喜多方市	80.9		16.4	74.6		18.0	184.5	293.5	374.5
34	北塩原村									
35	西会津町		2.3					5.6	7.9	7.9
36	会津坂下町	89.6		34.4	3.5			86.4	124.3	213.8
37	湯川村	0.2	3.4	2.3				23.4	29.1	29.3
38	柳津町							0.1	0.1	0.1
39	昭和村	11.9						15.2	15.2	27.1
40	会津美里町			3.1	0.3			0.6	3.9	3.9
41	三島町									
42	金山町									
43	下郷町									
44	只見町	0.5		0.4	1.7			27.0	29.1	29.6
45	南会津町	39.3			0.4			83.0	83.4	122.7
46	相馬市	31.9	1.3		30.3			84.1	115.7	147.6
47	南相馬市			150.9				84.7	235.6	235.6
48	新地町	56.3				1.8		21.3	23.1	79.4
49	広野町									
50	川内村									
51	いわき市			2.9	2.1				5.0	5.0
	合計	733.3	55.9	529.4	316.1	1.8	188.3	1,268.0	2,359.5	3,092.8

当会社ホームページ(<http://www.fnk.or.jp>)でも公表しております。

## 準備型給付金40名に給付

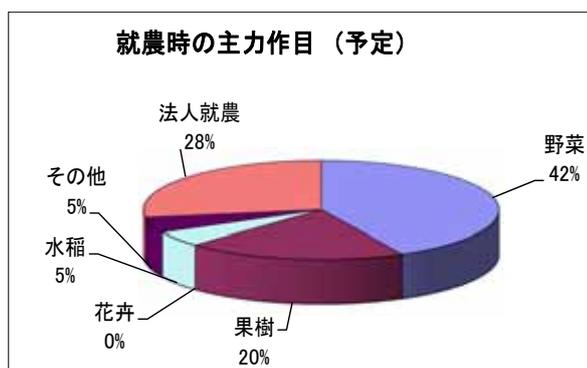
青年就農給付金（準備型）は、就農に向け先進農家等で農業研修を行う方々に給付するものですが、給付対象者は年々増加しており、平成27年度は前年度比6名増の40名の方に56,625千円を給付しました。

給付金を受け就農する方は従来、就農時の作目に野菜を選ぶ方が大半でしたが、27年度は果樹を選んだ方が8名と多く全体の20%を占め特徴的でした。

40名中この3月までに研修を終了する方が24名おります。この中には非農家出身の方も9名おり、4月以降順次県内各地に就農していくこととなりますので、皆様のご支援をお願いいたします。

準備型給付金については、27年度から県が認める研修機関として、県農業短期大学校が行う長期研修と郡山市園芸振興センターが新たに加わりました。

研修先の確保がこれまでより容易になり、準備型給付金を受給しながら就農を目指す方が今後とも増加していくことが期待されます。



## 6月に受給希望者を募集

青年就農給付金（準備型）の28年度受給希望者の募集は、6月に行うことを予定しています。

募集時期が近づきましたら、募集要領を育成センターのホームページに掲載するとともに県農林事務所や市町村等の関係機関にもお知らせします。

給付金を希望される方には研修計画等の申請書

類を提出していただきますが、研修先や研修内容就農形態等について一定の要件がありますので、詳しくは育成センターか各農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）にお問い合わせ下さい。

## 新・農業人フェアで就農相談実施

平成27年度も東京で開催された「新・農業人フェア」に4回ブースを出展し首都圏の方を対象に就農相談を行いました。ブースを訪れた相談者数は震災後大きく減少しましたが、徐々に震災前の水準に戻ってきています。



## 今号のコラム

### バドミントンのすすめ

勤めてすぐ始めたバドミントン。職場の同僚に誘われ、男女混合ということもあり長く続けられた。ラケットで打ち出されたシャトルの初速は、時速200km以上ともいわれるがレシーブ側に到達する時には、急激に減速し、慣れれば目で追うことが可能でさえある。私も運動神経は良い方とは自分では思っていなかったが、シャトルを打ち合うことにより動体視力が鍛えられ、結果的に俗にいう「運動神経」が良くなったような気がする。ラケットが軽く、体に対する負担が少ないため、けがの少ないスポーツであり、運動神経に自信がつくスポーツとして小学生からメタボ予備軍の方には是非おすすめしたい。



## 「農地中間管理事業の取組」

会津若松市湊町下馬渡地区  
大竹正夫



当該地区は、会津若松市の東部で猪苗代湖の西岸に位置し、標高500mの中間山地であります。米の単作を中心とした水田営農集落であります。

昭和50年代から60年代に30a区画を標準とした基盤整備を実施し、当時32戸の農家戸数があり平均的な耕作面積は2.5ヘクタールで、第二種兼業が多く自己完結型農業経営でした。

近年、米価の下落や生産調整の強化等、制度の不安定により生産コストが圧迫され、農地の流動化が増加してきたことから、平成19年に農用地利用改善組合を設立し「地区内の農地は地区で守る」こととし、併せて地区の有志9名が集い特定農業法人「くまのもり樂農」を設立した。農地利用集積円滑化事業等を活用し経営面積23ヘクタールで運営を開始した。以後毎年離農者が増加し平成25年に人・農地プランを策定し、1法人と2名の認定農業者を地域の担い手として、農地の集積を進めることとなった。平成27年度に農用地利用改善組合の合意に基づき農地中間管理事業を活用し、なお一層の農地集積を図ることとなりました。その間、農地中間管理機構の福島県農業振興公社をはじめ会津若松市等の関係機関の御指導を戴き、地域面積74.3ヘクタールのうち63.93%の47.5ヘクタール

が本事業によって利用権設定されました。今後も就農者の高齢化や農産物の価格の不安定の中で益々農業者の減少が予想され、地域の担い手への負担が一層高まってきています。

本事業によって交付される地域集積協力金の使途については、農用地利用改善組合の合意を得て、個々人の資産である農地の維持をすることとなる担い手農業者の設備投資や、営農継続のための経費に充当されるよう借り手農業者に重点を置き配分することを決定しました。

今後益々厳しい農業情勢が予想される中、貸し手農業者よりも地域担い手が安定的な経営のための施策が講じられるよう望むところであります。



### 編集後記

私の子供の頃、野球が一番人気あるスポーツでプロ野球選手は憧れの的であった。プロ野球シーズンになると巨人の試合は、毎日のようにテレビ中継されていた。現在は野球以外のスポーツに関心を持つ人が増えたことや、相次ぐ日本プロ野球トップ選手のダリ-グ移籍によるスタ-選手不在等様々なことから当時と比べようもなくプロ野球のテレビ中継は減少し、また軟式野球スポーツへの入団を希望する子供達も減っているとのことである。以前に比べて野球人気は低下しているようで

あるが、私にとって一番関心のあるスポーツは野球であり、3月下旬に開幕するプロ野球や7月の夏の高校野球甲子園大会福島県予選を今から楽しみにしている。 K.K

お問い合わせ

あて先 〒960-8681  
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階  
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>